

IR ニュース

2020年04月・07月 <第7号合併号>



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

巻頭言

新型コロナウイルス感染症のデータ公表から思うこと

前回、1月に発行したIRニュースの巻頭言では、「今年は2020東京オリンピック・パラリンピックが開催され、昨年のラグビーワールドカップ以上の興奮と感動を期待されていることと思います」と書きました。あれから半年が過ぎましたが、新型コロナウイルス感染症により、日常生活が一変した感があります。

1日の新規感染者数、PCR・抗原検査数、入院患者数、重症患者数、死亡者数、対策病床数などが政府や自治体のHPで毎日公表されています。また、年代別データ、日別のデータに基づく推移も公表されています。そして、これらのデータに基づいた対策が、政府や各自治体から発表されてきました。その際、政府と自治体によって根拠とするデータが異なっていたり、これらローデータから計算される指標の解釈が異なったり、発表する際の可視化が異なったりして、受け手側が何を根拠に判断して行動すれば良いのか戸惑うこともありました。

本学のIRについても、データの収集・分析・報告に関して同じような課題があります。IR担当者と受け手側が、具体的な指標を共有し、その指標をエビデンスとして判断をすることが必要です。それを解決するのが昨年度編纂した「福山大学IR指標集(案)」です(Karinの情報公開へアップ、IRニュース第4号で紹介)。今年度からは、このIR指標をもとに議論して、意思決定をするプロセスが始まります。

学長補佐(IR担当)兼IR室長 平 伸二

IRer募集中

私たちと共にデータ分析にご協力いただける方を募集中です。

目次

巻頭言	1
活動報告(1)	2
活動報告(2)	3

活動報告(1) 本学の学生はどんな感じ？

～「健康管理と行動調査票」の提出状況から学生の回答傾向の分析を試みる～

「健康管理と行動調査票」の提出状況を危機管理部門より、提供いただいたので、整理してみました。まず、「健康管理と行動調査票」の提出状況（4月8日～6月30日まで）の結果を図1に示します。

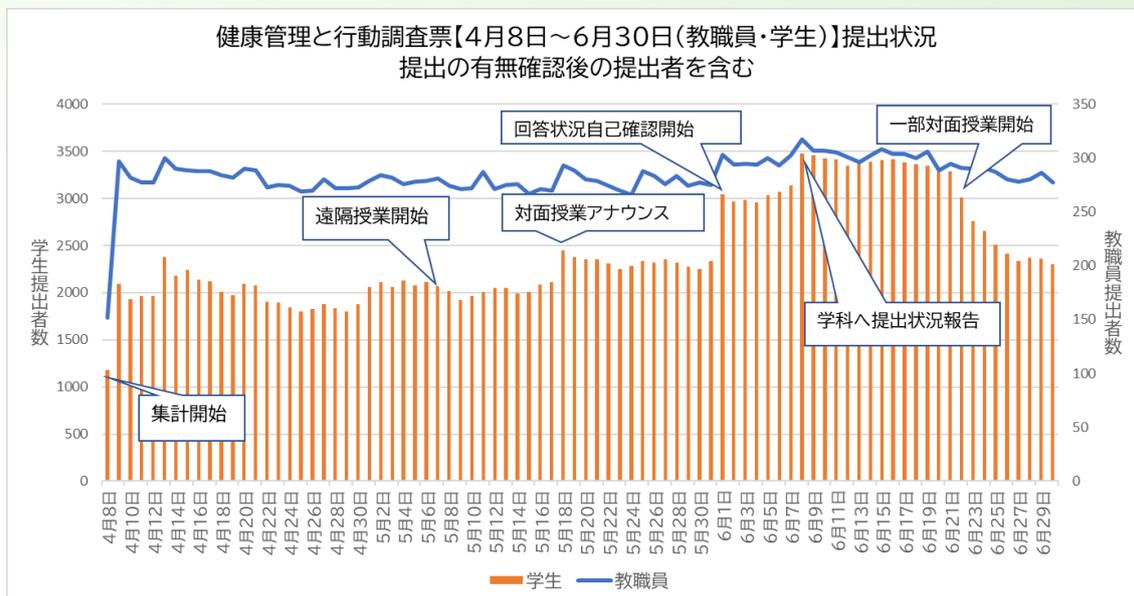


図1.「健康管理と行動調査票」の提出状況(4月8日～6月30日まで)

提出数は6月1日に「提出状況を自己確認できる仕組み」が導入されたので、自己確認後に未提出のものをさかのぼって追加提出したものが含まれています。

調査の対象者は、教職員（常勤・非常勤を含む：445名）、学生（学部生・大学院生・交換留学生・科目等履修生・研究生を含む：3,957名）です。

表1に「主なイベントとその開催日」を示しました。図1とあわせてみると、イベントのタイミングで回答率に変化がみられるようです。

順にみていくと、「対面授業」のアナウンス（5月18日）がZelkovaより流れた後、提出者数が増えています。6月1日には、「健康管理回答状況チェック」により、各自で提出状況が確認できるようになったためか1,000名近く提出者が増え、回答状況が向上しています。

6月8日には、提出回数が極めて低い学生のリストが学科に配布され、教員からははたらきかけで、期間中最も回答数が多い日となりました。しかし、それから2週間が過ぎ、「のどもと過ぎれば熱さを忘れる」のとおり、急激に回答数が減っています。

表1. 主なイベントとその開催日

日付	イベント
4月8日	集計開始
5月7日	遠隔授業開始
5月18日	対面授業アナウンス発信
6月1日	提出状況自己確認開始
6月8日	学科へ提出状況報告
6月22日	一部対面授業開始

では、学科ごとには、どのような傾向があるのでしょうか(別紙資料参照)。学科ごとに定員が異なるので教員一人あたりの担当人数は異なりますが、6月1日を境に急増する学科と5月から漸増していた学科とに大別できるようです。回答数が継続して多い学科は、学科教員が絶えず、声掛けをされ継続的な指導を行っているそうです。

他に気づくことは、多くの学科はイベントから2週間を過ぎると回答数が減っていることです。本学の学生には、2週間周期で情報を提供すると学生に回答行動を促すことができそうです。

そのほかにも、図1より本学の学生の傾向として、

- ① 「健康管理と行動調査票」の依頼を受けて、重要性を理解し対応する学生は4割
- ② 催促メールなどで促されてとりあえずそのタイミングのみやる学生が、1割
- ③ 提出状況などが確認できるなど、ゴールが分かっている場合に行動する学生が、2割

という傾向がみえてきます。これらのことより、提出が継続するのはだいたい7割くらいの学生ではないでしょうか。各学科での学生の指導の参考にしてみてください。

(片桐 記)

活動報告(2) 本学の学生はどんな感じ？

～在学生情報から知る安全対策～

図2は2020年度新入生を含む在学生情報から現住所の情報をを使い、住居分布を地図上に示したものです。内側の実線の円は大学を中心とした半径50kmの領域、外側の点線は半径80kmの領域です。

多くの学生が福山市を中心とした地域に住み、瀬戸内沿岸部を東は岡山市、西は広島市の160kmの範囲にほとんどの学生が含まれます。このデータにより通学圏の確認だけでなく、大雨や台風による休校の意思決定、災害発生時の安全対策などに実情を反映させた情報として提供することができます。

学生の住居分布

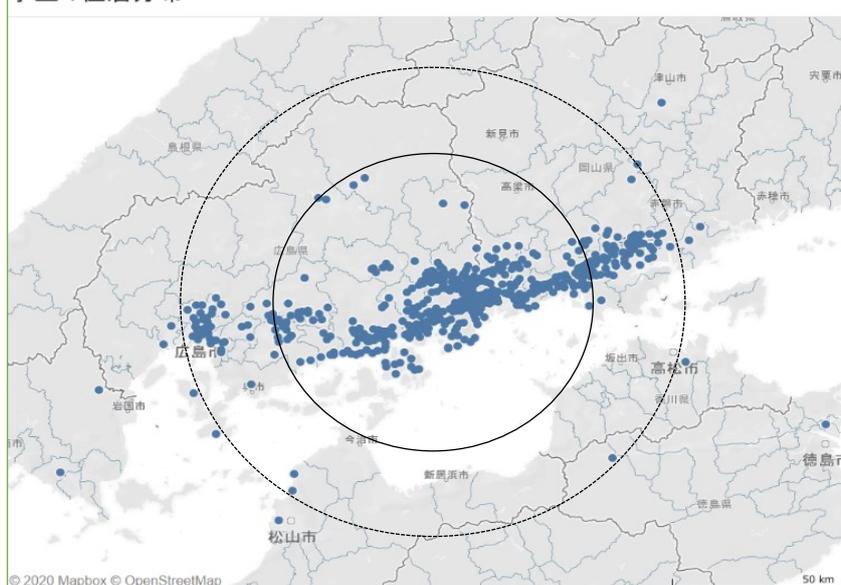


図2. 学部生の住居分布(2020年7月の在学生情報から)

(記谷 記)

編集後記

2020年度が始まるとすぐ、編集委員の各人はIR室以外の兼務により、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、全学の安全衛生対策と学生の学習支援環境支援の業務に多くの時間を費やし、取り組む状況となりました。今号は合併号として、その取り組みの一部を報告させていただきます。

IR ニュース

<第7号合併号>

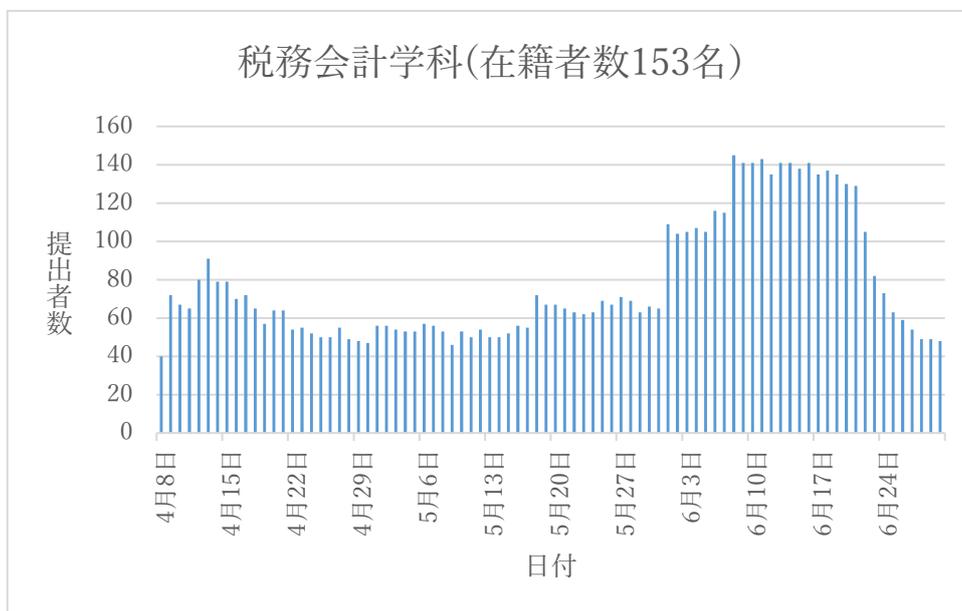
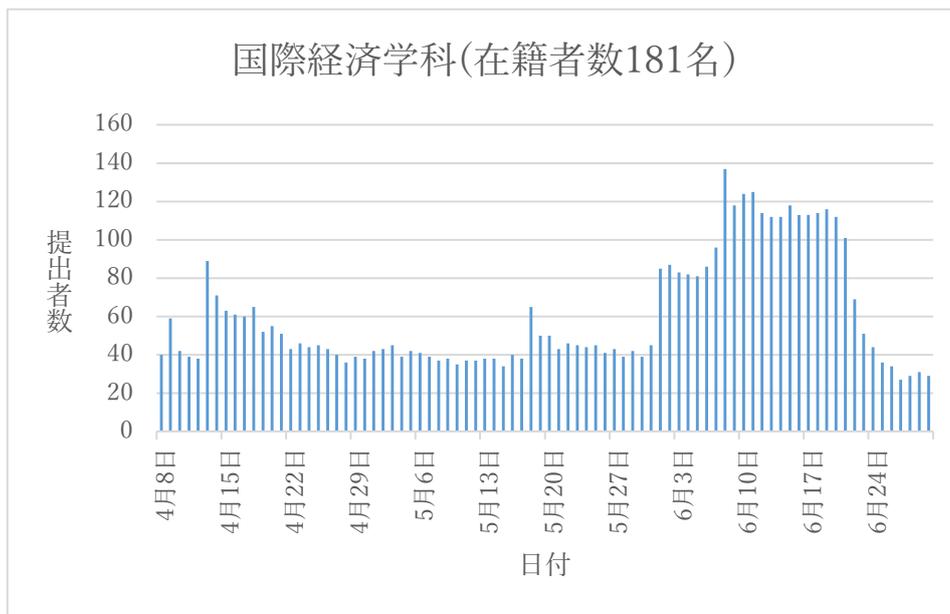
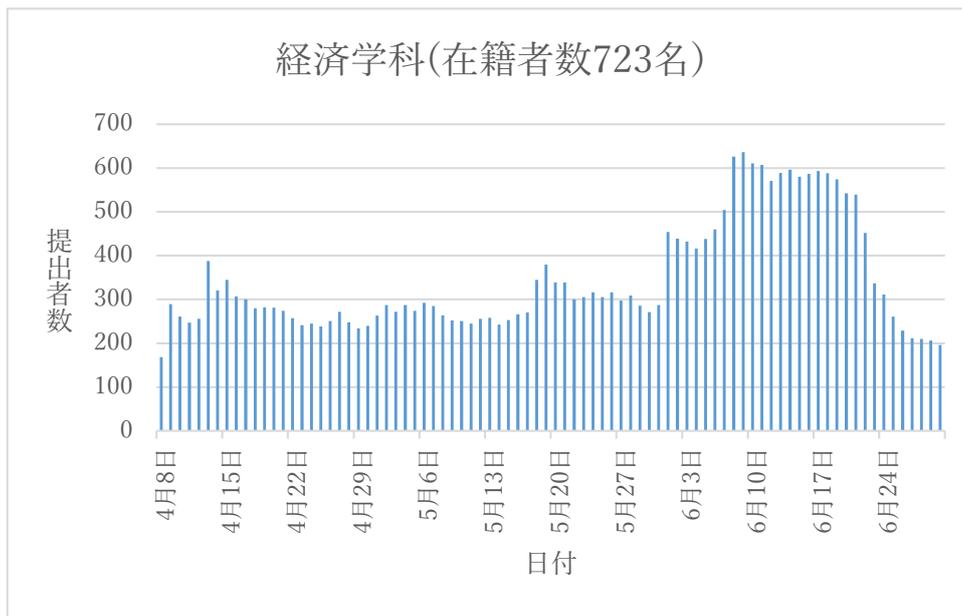
編集	IR室
編集委員	平 伸二
	片桐 重和
	記谷 康之

ご意見・ご要望がございましたら下記までご連絡ください。

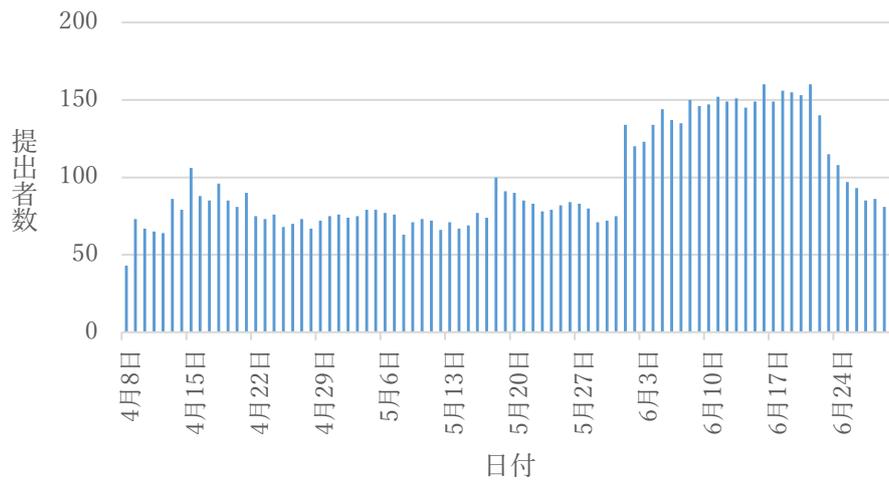
Email: irwg@fukuyama-u.ac.jp

別紙資料 学科別「健康管理と行動調査票」の提出状況(4月8日～6月30日まで)

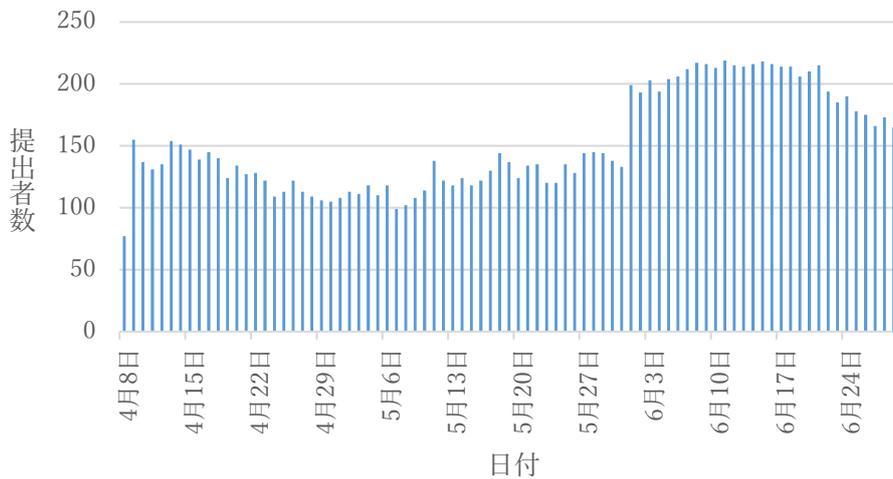
在籍者数は2020年5月1日現在



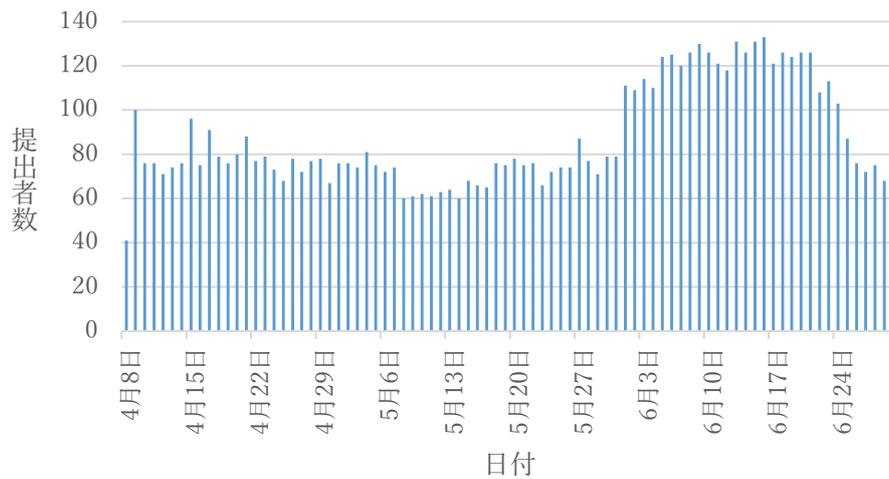
人間文化学科(在籍者数209名)



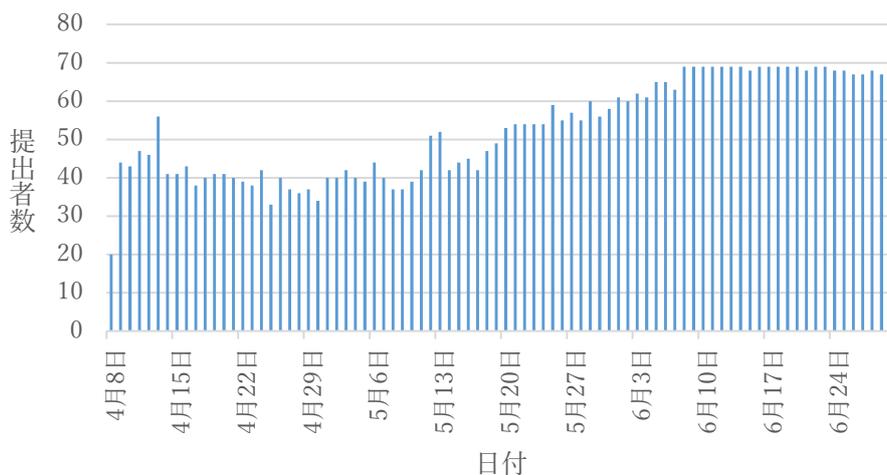
心理学科(在籍者数245名)



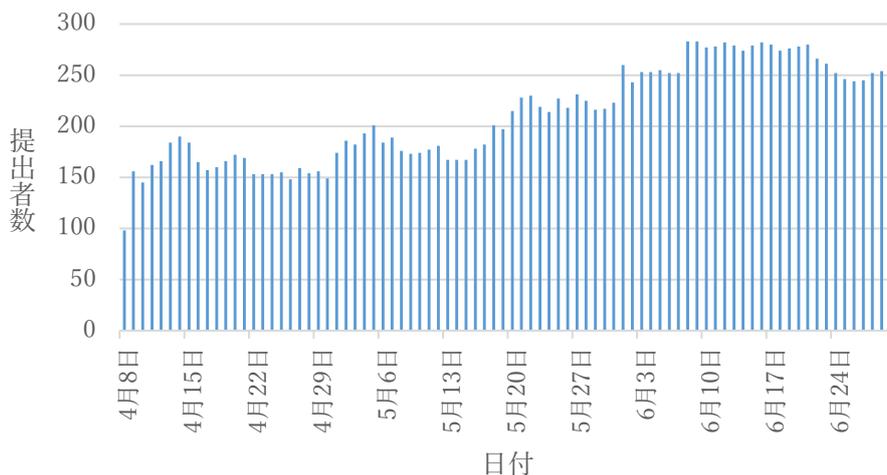
メディア・映像学科(在籍者数152名)



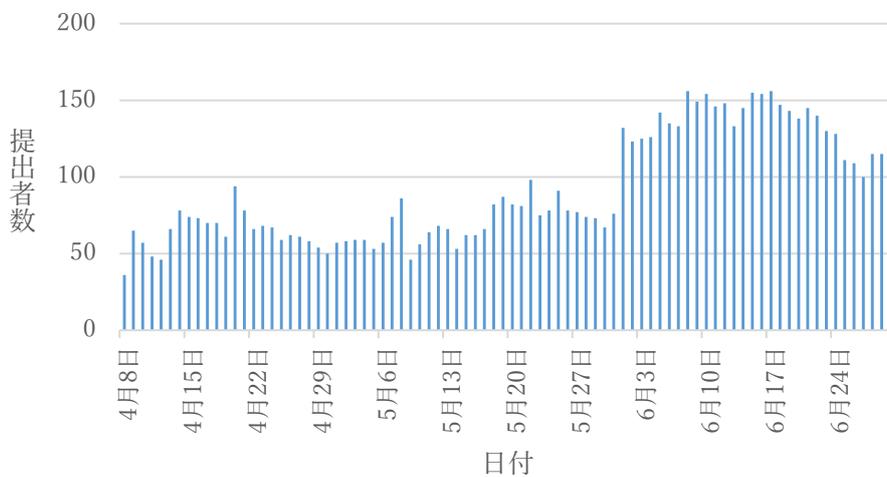
スマートシステム学科(在籍者数69名)



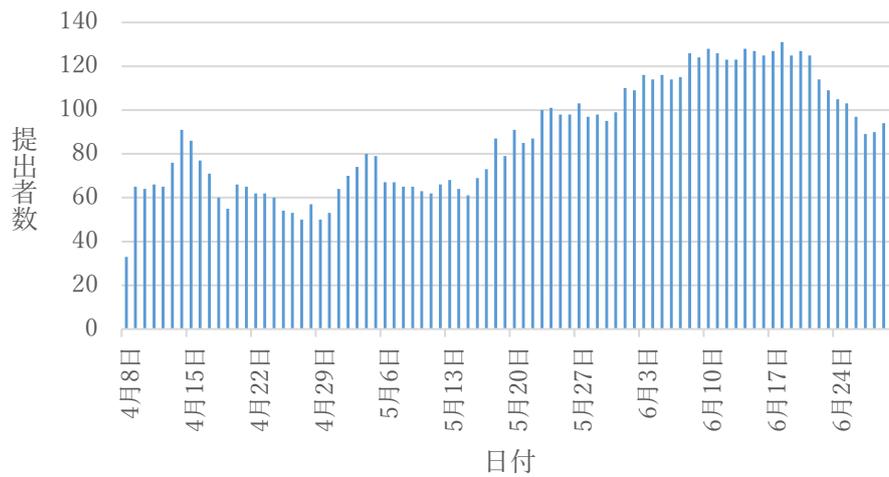
建築学科(在籍者数300名)



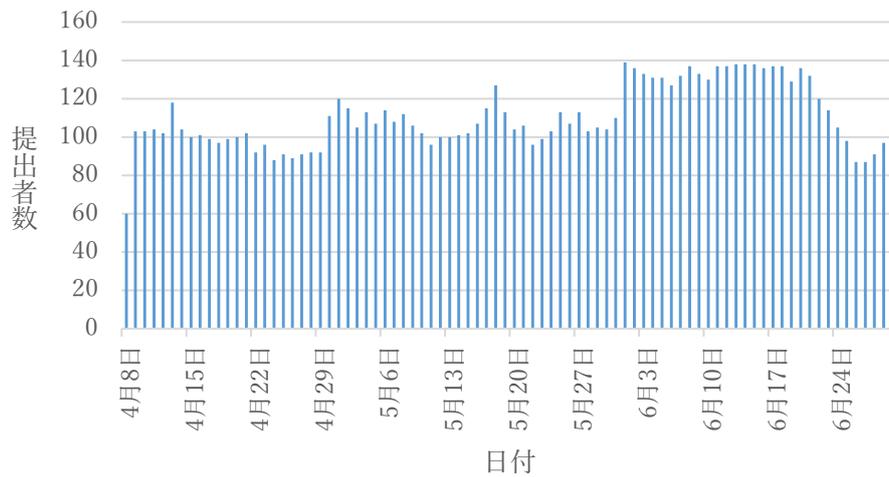
情報工学科(在籍者数200名)



機械システム工学科(在籍者数131名)



生物工学科(在籍者数152名)



生命栄養科学科(在籍者数134名)

